

実習室を核とした助産師養成施設

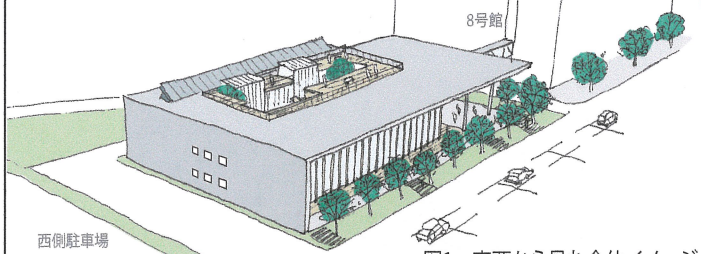


図1 南西から見た全体イメージ

社会的背景の変化と共に高度化・多様化する助産師の職能。地域や多職種連携の中で各分野の境界を横断し『自律性』を持って活躍する未来の助産師を育てる環境が重要であると考えます。私たちは実習室を核として学生と教員のコミュニケーションを生み出し、地域や病院、他学部等との連携により助産学のシナジー（相乗効果）を高める助産師養成施設を提案します。

- 実習室を中心に座学と実習のシナジーを高める施設
- 助産教育の変化にハード・ソフトが柔軟に対応する施設
- 学内外に開き地域助産を支える交流拠点施設

平面・動線計画について

従来のように諸室を並列的に配置する構成から、実習室を中心に周囲に諸室を配置する求心的な構成とすることで『座学（講義・演習・研究）』⇔『実習』との連携を容易にし、助産学における座学と実習のシナジーを高める計画とします。また、実習室を中心とした回遊動線により、学生や教員の授業間移動を効率化し、限られた期間での即戦力となる助産師養成を実現する機能的な施設計画とします。

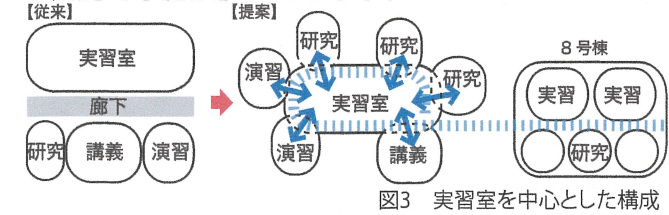


図3 実習室を中心とした構成

- ・1階は別科、2階は大学院を配置し、1階の実習室との視覚的・空間的な繋がりある計画とします。
- ・静かな北側に研究室エリア・南側には移動が活発な賑わいのある講義・演習エリアを配置します。
- ・会議室は玄関に隣接し、一般開放時の利用を容易とします。

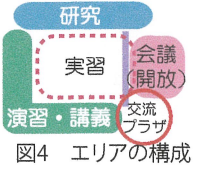
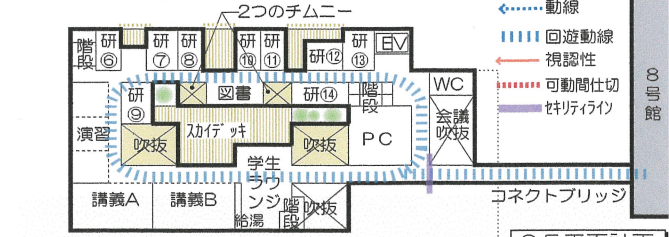
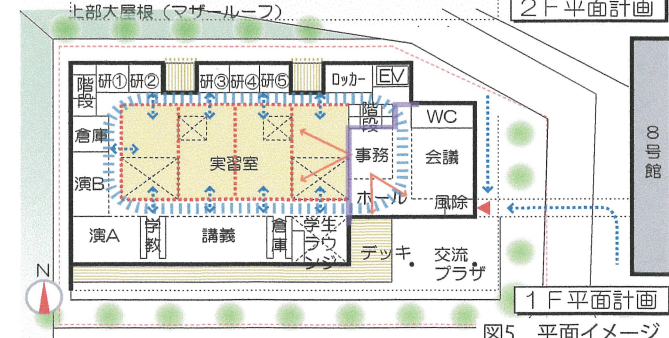


図4 エリアの構成



2F平面計画



1F平面計画

図5 平面イメージ

(1) 既存建築物との一体性・連続性を考慮した施設のあり方

11 外部動線の結節点となる『交流プラザ』

- ・キャンパス最西端に位置する対象地には、駐車場やテニスコートへの動線が集中する南東側に結節点が生れます。結節点には『交流プラザ』を計画し、人の寄り付きやすい空間とします。また、人と車の交差点として、安全性に配慮したハンプ等を検討します。
- ・南側は緑陰のテラスとし、キャンパス中央の庭から続く緑の連続性を受け止め、キャンパス全体の景観に配慮します。

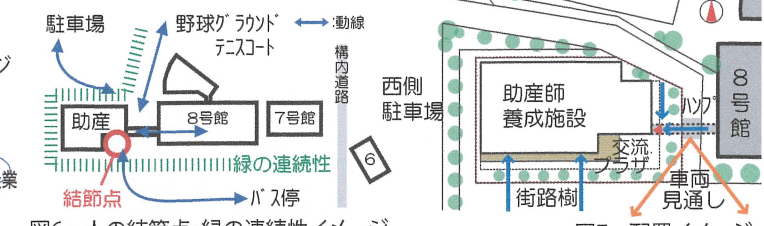


図6 人の結節点・緑の連続性イメージ

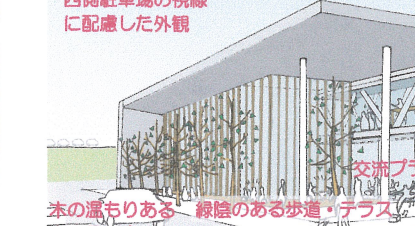


図7 配置イメージ

(2) 良好な教育環境の中で学生たちが快適に過ごせる施設のあり方

21 実習室やスカイデッキを中心に多様な関係とシナジーを生み出す空間構成

- ・実習室とスカイデッキを囲うように諸室を配置することで回遊性を生み、吹抜けを通して上下階が視覚的に繋がることで接触可能性を高め、シナジーを生み出す空間構成とします。

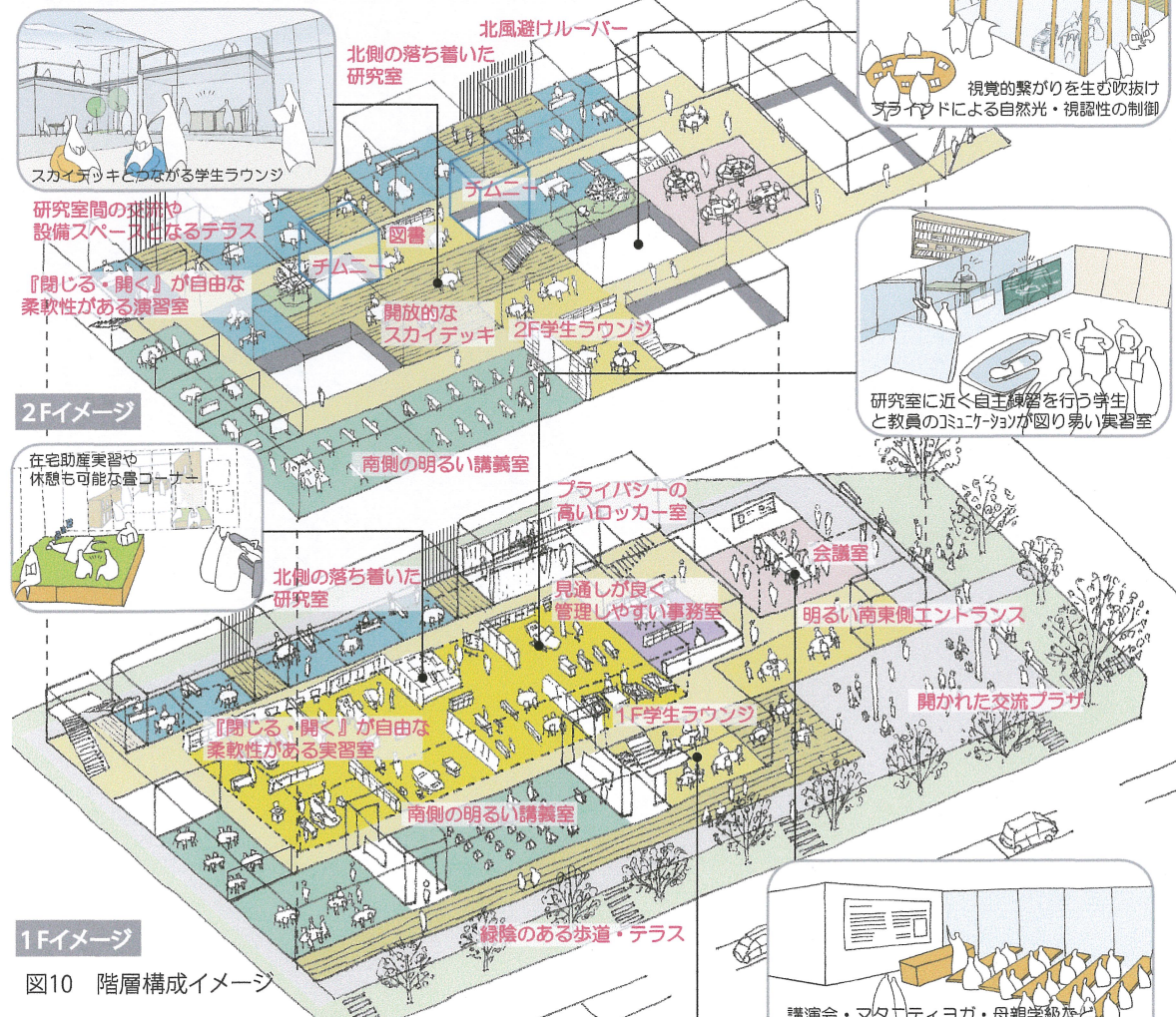


図10 階層構成イメージ

2.2 女性にやさしい環境づくり

- ・女性目線を重視したユニバーサルデザインを心がけ、居心地の良い居場所や体調に配慮した空調・衛生設備を計画します。



図11 女性にやさしい環境イメージ

12 内外を包む大屋根『マザールーフ』

- ・『マザールーフ』による深い軒下空間は、歩行動線を確保する豊かな半屋外空間とし、情報掲示板や屋外ベンチを設け、学生同士の交流の場を生み出します。
- ・軒先の水平ラインを象徴として周辺の景観に配慮するとともに、西側はルーフを立下げることで駐車場からの視線に配慮します。

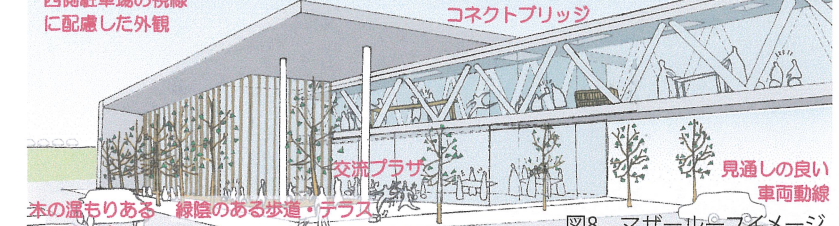


図8 マザールーフイメージ

13 豊かな接続空間『コネクトブリッジ』

- ・施設間の通過動線としてだけでなく、本棚やカウンター、ベンチを設置することで、居場所としての豊かな接続空間を創出し、立ち話や意見交換など活発なコミュニケーションを誘発する計画とします。
- ・家具や内装は、積極的な木質化を図り温かみのある空間とします。

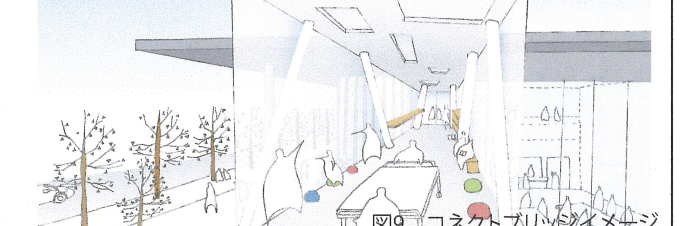


図9 コネクトブリッジイメージ

(4) エネルギー性能が高く、持続可能性に優れた施設のあり方

4.1 環境負荷低減と再生可能エネルギーの活用

- ・断熱性能の強化、省エネ機器使用、利用者の環境行動励行、太陽光発電により、ZEB化を目指します。
- ・南側の軒を深くすることで日射のコントロールを行ない、冷房負荷を軽減すると共に勉強に良い教室光環境をつくります。
- ・南側講義室の照明は明るさセンサーと連動して、室内照明器具の制御を行ないます。
- ・中間期は自然換気が活用できる2つのチームニーを積極的に活用します。
- ・空調機は高効率なパッケージエアコンを用い、換気は全熱交換換気を行なう省エネ計画とします。
- ・ソーラーチームニー効果とクールチューブの活用で外気負荷と送風機動力の低減とシックハウス換気を満足するように利用します。
- ・屋根に太陽光パネル(50kw)、1階に蓄電池(20kw)を設置し、自立したBCP対応とします。

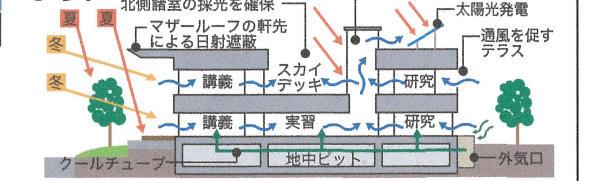


図15 環境断面イメージ

4.2 修繕改修・維持管理コスト低減

- ・既存棟からのインフラ引込みルートは地中ビットとし、改修・維持管理に対応します。
- ・使用設備機器は汎用品を用いて機器の手配入手を容易にし改修コスト低減を図ります。

(5) その他、本施設の計画において特に重要と考える提案

5.1 適材適所の構造計画の提案

- ・中心部はRC造コアの強剛な耐震要素として地震力を支え周辺部は鉛直荷重のみを支えるS造の軽快でフレキシブルなハイブリットの構造計画とします。
- ・2階床をデッキスラブとすることで支保工や型枠を削減し、施工によるCO2排出の抑制、コスト削減、施工性に配慮します。

図16 RC+S造イメージ

5.2 現場の意見の汲み上げを重視

- ・現役助産師をはじめ他学科などアンケート・ワークショップを通して、現状の把握とシナジー効果の生まれる助産師養成施設づくりを共有します。

2.3 実習室を中心とした機能的な計画

- ・実習室を中心に講義室や研究室が囲う配置とすることで、授業間移動の効率化・短縮化や自主練習する学生が研究室の教員から指導を仰ぎやすい距離感に配慮した計画とします。
- ・実習室を1階に配置し、実習の什器搬入を容易にします。また、下部ピットを利用し、給排水を伴う設備の維持管理更新に配慮します。

2.4 『閉じる・開く』が自由な実習室・演習室

- ・可動間仕切りの開閉により、一体利用やグループ分けによる個別利用、自主練習など教育指導・練習環境に合わせた多様な利用を可能とします。
- ・実習、演習内容に応じて『閉じる・開く』が自由に選択でき、特に実習に対する視認性の制御や実習に伴う掛け声などの遮音性にも配慮した計画とします。

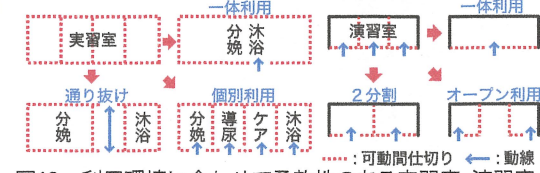


図12 利用環境に合わせて柔軟性のある実習室・演習室

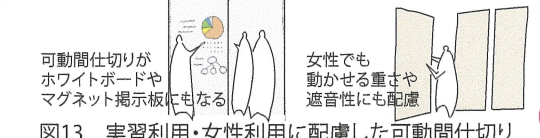


図13 実習利用・女性利用に配慮した可動間仕切り

(3) 多様な交流や様々な連携・協働を生み出す施設のあり方

3.1 憩いの場となるスカイデッキ

- ・女性主体の施設であるため、中を開く安心感ある憩いの場とします。
- ・研究室の学生や教員の憩いの場となり、学生ラウンジに隣接する事で看護学部等他他学部との異分野交流を促進します。

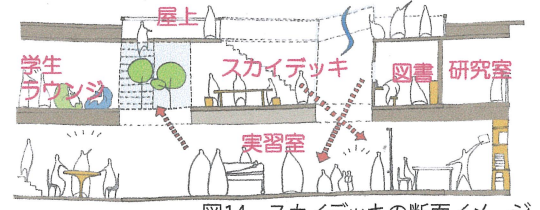


図14 スカイデッキの断面イメージ

3.2 地域開放も可能な会議室

- ・マタニティヨガや母親学級等のイベントに対し積極的な地域開放を可能とします。
- ・ブラインドや可動間仕切を設置し、閉じた利用も可能な計画とします。